

創学舎ニユース

No. 263

逃げるな！ 高3生！

受験生の顔つきがよくない。疲れている。目の輝きが乏しい。肝心の勉強も遅れ気味の人が多い。でも、思いつめている風でもない。「何となくブルー」といった感じが。

先に生まれた者としては、正直言って情けない。何故もつと一生懸命にならないのか？勉強するのならもつと一生懸命やれ。悩むのならもつと悩め。受験に外の道を探すならもつとあがけ。中途半端な人がいてもいいし、そういう状態の時期があつてもかまわないが、何故、こんなに大勢の人がそうなんだ？
とはいうものの、キミ達が、そういう在り方をしているのは、一部は社会の責任であり、人によっては一部は家庭に原因があり、また、個人の資質の部分もあるだろ。何よりもキミ達の多くが夢を持たずに生きていて、何かで傷つくの避けようといつも一歩引いて身を置いていっている、この社会の大人達(私もその一人)の在り方を反映している。そのことに、私もいくらかの責任を感じるのだけれども、それでも言いたい。今のままでは、幸福感は味わえない



ぞ。ささやかな希望は幻想に終わるぞ。

私は、失敗ばかり重ねてきた人間である。(その失敗の数々は、恥ずかしくてここには書けない。行き詰まって駆け込んで来た人だけに話すことはある。)しかし、いろいろな人達のお陰で何とか生きてこれた。その人達のお陰で、幸福感を味わわせてもらっている。「幸福感」これは、本当に大切なものだ。人はまさにこのために生きていっているといつてもよい。そしてキミ達にも、是非味わってほしい。そして、それを味わっているキミ達を見てみたい。不思議だが、それが私の「幸福感」を肥やす。で、言おう。

自分の気持をよく見ろ。「勉強したくない」「気が乗らない」「どうせ……」というのは、キミの一番大事な思いか？違はずだ。そんなものは表面的な気分だ。キミの心の底にも「力をつけたい」「合格したい」という願望が確実に存在している。それを気分で裏切っているから不快なのだ。大切にしたいのはどちらか？毎日毎日選択しろ。それが実は生きることなのだ。それが自分を大事にすることなのだ。勉強がうまくいっていないA君もB君もCさんも「今の自分が嫌い」といった。冗談じゃない。だったら好きになるように動け。ほんのちょっとした勇気を出して選択しろ。そして続ける。但し、これから気合いを入れても、先は甘くないぞ。結果が出るのに2〜3ヶ月はかかる。その時間を耐えろ。「耐え続けられれば、必ず成果が上がる」とい

れを約束して筆をおく。

(小林)

チキンハートの 愛しき生徒達

テストのときに緊張してしまつ生徒が多い。年々増えているような気もする。本当にかわいそうだし、残念なことだ。

過度に緊張し、力を出せない人々をチキンハートの持ち主という。教師も友人も大人も、そういう持ち主に、無責任なアドバイスをする。「もつと落ち着いて」「プラス思考で」「もつと前向きに」「気楽にやればいいんだよ。……。当事者から見れば、うんざりだ。ヘドが出そうになる。「うつ病」の人に「頑張つて」は禁句だが、それを知らずに励まし続けて結果的に追い込んでしまつと同様に、周囲の無責任なアドバイスがチキンハートの持ち主を追いつけていくこともある。

さて、チキンハートの持ち主は、きつとこれからも何回か失敗を繰り返していくだろう。それは仕方ないことだ。では、きみ達の人生は、もう終わっているのかというと、そうではない。人間の特性は、動物的本能を超えて、「学習」出来ることにある。知性を駆使し、分析し、理屈を組み立てて、実践し、修正できるのだ。だから、諦めてはいけない。きつと、きみは前に進める。きつときみは成

長した自分に会える。では、どうすればいいの。

まず、きみの長所の確認から。チキンハートの人は、共通に次のような長所を持っている。

向上心が強い
理想が高い
敏感である……。こうした長所は、うまく

作用すれば、大きな力を発揮する。自分のやりたいことを見つけ、周囲の人の役に立てることが可能となる。

一方、これがマイナスに働くと、きみを苦しめることも多い。努力できない自分、成績が伸びない自分、勉強が続かない自分を、常に責める。勉強しているときも、その行為は無意識のうちに続けている。結果、時間の割に勉強は進まない。そして、また自分を責める。テストになると、その反動がでたりして、高得点を目指す。途中で、解けない問題があると、落ち着きをなくし、パニックになる。結果、理想の高い自分には許すことのできない低い得点。こんなことをくり返す。



分かるかい。きみの長所が、そのままきみの弱点にもなっているのだ。まず、このことを確認しよう。これが成長への第一歩。次に、事実の確認である。

学力は一歩一歩進むことで身につく。

地道な努力こそが重要なのに、きみはそれを忘れて、一発で決めようとしている。

得点は後からついてくる。まず、勉強

をして、知識を身につけ、その使い方を身につける。この蓄積を学力とよぶが、学力がある程度たまるまで、得点は伸びない。たとえば、単語を百個覚えても、模試の得点はほとんど伸びないことを考えれば、理解できるはず。

不安は高い目標の裏返し。 志望校のレ

ベルを、つんと下げれば、必ず合格するのに、それはできない。あなたの向上心が許さない現実と目標のギャップが大きければ大きいほど不安は大きくなる。そしてそれは消えることはない。永久に。そのことを認めて、不安をかかえたまま生きるしかないのだ。

続けることをやめてはいけない。 続け

ていけば、少なくとも維持はできる。しかし、続けるのをやめた時から、学力の低下が始まる。実は自分でも、それは分かっているはず。

伸びは続けていった結果としてしか得られない。 続ければ、少なくとも維持はで

きると書いたが、当然維持だけでは伸びも合格もおぼつかない。そこで、続けることへの疑問、使っている教材への疑いが発生する。しかし、やめたらダメ。続けていく中で、自分のやり方の欠点に気付く、それを修正し続けるうえでのコツをつかんでいくしかないのだ。

人の能力はかなりある。 とはいっても、

自分の能力のなさに絶望的になっている受験生も多いはず。気持はよく分る。私もそういうことをくり返してきた人間だから。しか

し、それは間違いである。人間の能力は無限ではないが、かなりあるのだ。それを使い切っていないだけ。それを十分に使うにはどうするか。今こつして、きみ達に問いかけているように、分析と確認と修正を怠らず、やるべき作業を続け、やり方を修正していくしかないのだ。(以下次号) (小林)

トイチャライイトフ

銀座に行くとき必ず立ち寄り本屋がある。そこにはある出版社のコーナーがあって、その本が好みに合うものだから、いつも、つい同じ本棚の前で時間をつぶしてしまふ。

その本棚の中に、神谷美恵子の本があるのは分かっていた。本が私に向かって、「読みなさい」と語りかけているようにも思えた。



時々、もしくは、しばしば、このようなことがある。直感というか何というか。惹きつけられてしまったらどうしようもないので、素通りはしないようにしている。そして大抵このようにして出会ったものは、皆、何か心を照らすものを持っている。

創学舎ニユースNo.233に「ひとは自己の精神の最も大きなよりどころとなるものを、自ら苦悩の中から創り出しうるのである。」という神谷美恵子の言葉が掲載されている。

これが最初の出会いだった。何年か前に私の身に起こった事実と、その事実に対する私の受け止め方によって生じた、ささやかかもしれない苦悩に寄り添い、これからの人生の道しるべに、この人と本はなるかもしれない。そう思った。その年の夏は、神谷美恵子を読んで過ごした。

一人の人間が体験できることには限りがあるから、他の何かによって体験を補足し、幅を広げ、視点をより重層的にすることが、求められる。読書ならこれができるだろう。このことが本が持つ役割のひとつであろう。実際に体験したことのない側面が、本を読むことによって浮かび上がってくることもある。読んでも読んでも常に、読んでいない本のほうが圧倒的に多いことには、ため息をつくしかないのだけれど。

大の読書家でもあった彼女の本をめぐることばが、「本、そして人」と題された著作に載っている。その中から、神谷美恵子の生き方や考え方が表れているような文章を、少し長くなるが、引用しよう。

「サン＝テグジュペリは遺稿となった大作『城砦』の中で、「交換」exchange という思想をしばしば述べている。

人間は何かのしごとに打ち込んで、自分のすべてをそれに献げることによって、自分の生命をそれと交換するのだという。そのしごとが大工の作業であ



るうと、刺しゅうであろうと、何でもいい。ともかく我を忘れて努力をつみかさねるうちに、そこにその人間よりも永続的な価値のあるものが生まれ、その人間はやがて年老いて死ぬが、死ぬとき、「その両手は星で一杯なのだ」という詩的な言葉がしるされている。私はこの思想が大好きで、何度もこの部厚い本を読みかえしてみる。しかしいくらこの美しさに魅せられても、自分自身でこの思想を生きるだけの力がないので、これはただいつも理想の一つとしてあたまの上に耀きつけているだけである。(武内)

『親子の関係』『いじめの周辺』は休載です。申し訳ありません。



受験生に読めー(合格のシグナルが「TOI」)

勉強法・精神面のケアーなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。非売品です。希望者には無料で差し上げます。

愛の壁 お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

創学舎ニユースの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国書店で発売中。

卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニユースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。